



ご出席になっておられたのでした。何日は誰がどういふ問題について講演するということは前もって各会員に通知がいつており、出欠は自由になつて居るのです。私の話を聞かれるためこのお二人がご出席になつておられたのには誠にびっくりしたのでした。これまで時々この例会に出席していましたが、こんな立派な方々が揃つてご出席になつておられることは一回もなかつたのでした。竹田宮様は私のすぐ左側前におられました。講演がすむと「自分は北ロータリークラブの会員である。北ロータリークラブに来て話をするように、また自分は霞会（戦前は華族会といい、公、侯、伯、子、男爵などの華族を会員とするクラブ）の理事長をしているが、そこでも話をするように」といわれ、ご自分でこの両方に電話をおかけになつたのでした。誠にもつたいなく、ありがたいことでした。

その後、同年十月六日この長老会で竹田宮殿下が「昭和天皇と終戦秘話」と題して講演されるので出席したところ、お帰りになられるとき、「華族会でいつやるか相談するから、いっしょに事務局まで来なさい。」といわれ、自動車に乗せていただきましたが全く過分の光栄でした。旧華族会での講演は翌年二月一日と決めていただきました。